

# 調査・設計業務における 総合評価落札方式の導入効果



総合技術政策研究センター 建設マネジメント技術研究室

室長 笹田 俊治 主任研究員 服部 司 交流研究員 毛利 淳二

(キーワード) 業務 総合評価落札方式

## 1. はじめに

2008年8月、国土技術政策総合研究所では、大臣官房技術調査課及び各地方整備局等と共に、「設計コンサルタント業務等成果の向上に関する懇談会（座長：小澤一雅東京大学大学院教授）」における議論を踏まえ、「建設コンサルタント業務等におけるプロポーザル方式及び総合評価落札方式の運用ガイドライン（暫定版）」を作成した。本ガイドラインでは、従来から活用されているプロポーザル方式と試行的に導入された総合評価落札方式の選定の考え方が整理された。

## 2. 総合評価落札方式とは

入札・契約方式の選定に当たっては、成果品の「効用（利用者の満足度）」が大きく「費用」が小さいことが、国民の最大の利益となることを基本としている。「総合評価落札方式」は、価格と技術のバランスが総合的に優れた者が落札者となる方式であり、価格競争入札方式とプロポーザル方式の中間に位置づけられる方式であるということが言える。

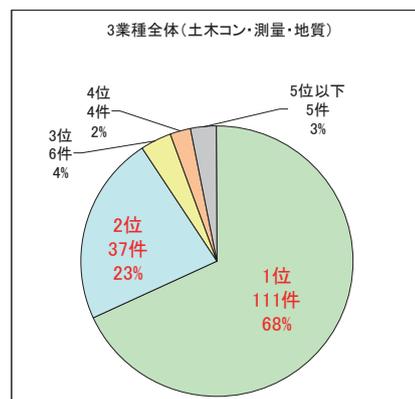
「総合評価落札方式」を導入することにより、価格の評価に加え技術の評価がなされることになり、技術力が低い者が落札しにくく、より高い技術力を持つ者が有利になること、ならびに低入札案件の抑止にも寄与することから、調査・設計業務の成果の品質向上が期待できる。

## 3. 評価方法と導入効果

調査・設計業務の総合評価落札方式は、加算方式が導入されており、以下の総合評価値が最も高い競争参加者を落札者としている。

- ・ 総合評価値＝価格点＋技術点
- ・ 価格点＝価格点の配分点  
×（1－入札価格／予定価格）
- ・ 技術点：技術提案の妥当性・的確性、業務実施方針の妥当性、予定管理技術者の技術力等（60点満点）

価格点の配分点を、60点、30点、20点のいずれかとすることにより、価格点と技術点との比率が、1：1、1：2、1：3のいずれかに設定されている。2008年度11月末時点の契約実績における、落札者の技術点順位は、1位もしくは2位を占める企業が落札した割合が9割以上を占めている。また、総合評価の試行的導入により低入札を回避できたと考えられる案件は低入札があった62件中34件（55%）であった。



落札者の技術点順位別件数(3業種全体)

## 4. おわりに

総合評価落札方式に関する制度・運用面での改善をはじめ本格導入に向けて検討すべき課題は多い。今後、総合評価落札方式における技術力評価手法の整合性を確保しつつより多くの発注現場への普及促進に向けて、制度の改善、普及促進に向けた適用事例の研究を進める予定である。

<http://www.nilim.go.jp/lab/peg/index.htm>